

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-004932

(43)Date of publication of application : 11.01.2000

(51)Int.Cl.

A45D 34/00

(21)Application number : 10-193608

(71)Applicant : HIDAN:KK

(22)Date of filing : 25.06.1998

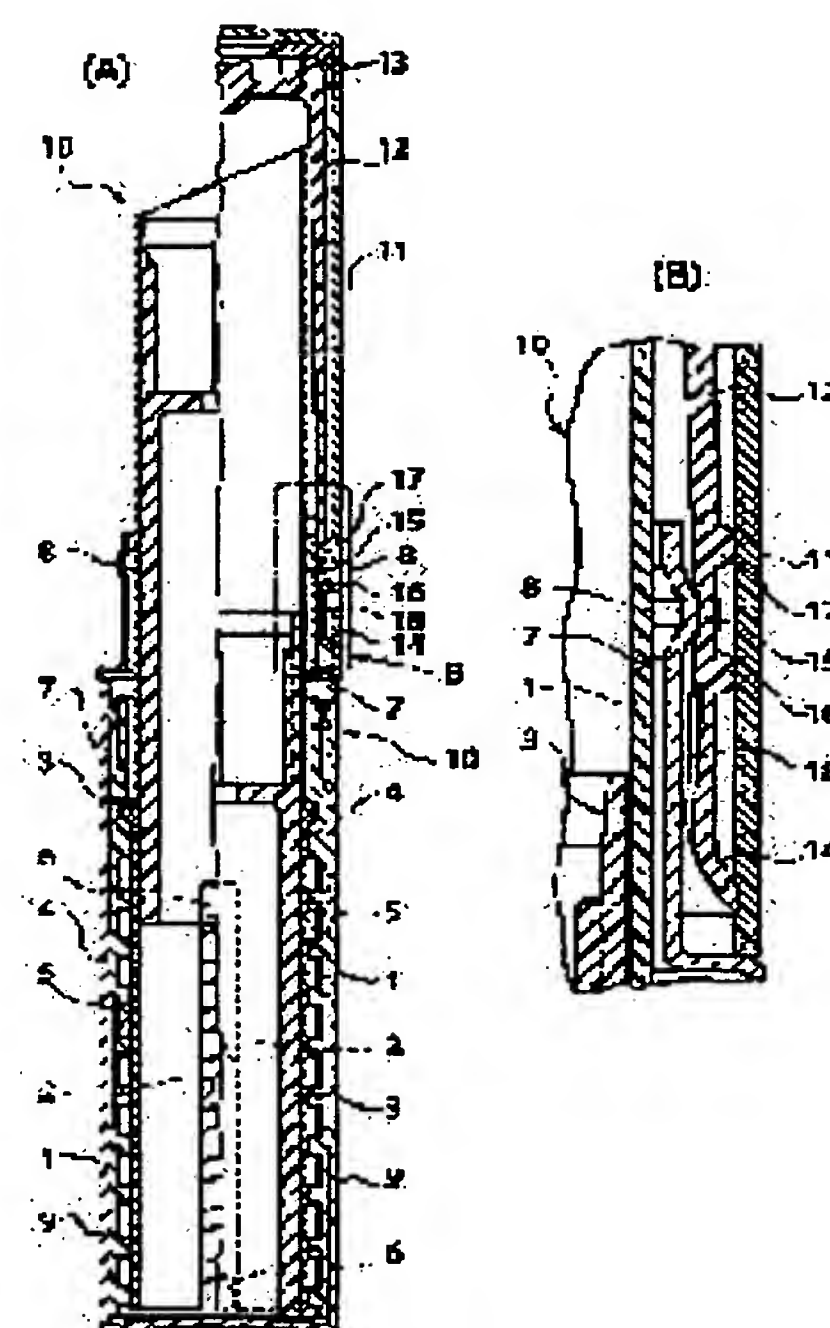
(72)Inventor : ITO KENICHI
KOBAYASHI TETSUO
FURUYAMA MASAHIRO
ABE YOSHIATSU

(54) COSMETIC CASE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To keep the air-tightness of a cosmetic case effectively.

SOLUTION: A protruding ring 8 is formed around the outer wall of a middle member 7 to be engaged with a cap 11 of the cosmetic case main body 10. The surrounding wall of the part in an inner cap 12 corresponding to the protruding ring 8 is thin and the vertical section of the inner surrounding wall is flat to form a thin part 15. And parts above and below the thin part 15 are thick to form thick parts 16 and 17. When the cap 11 is engaged, the thin part 15 is clasped by the thick parts 16 and 17 and the thin part 15 is closely attached to the protruding ring 8.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

30.06.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3153992

[Date of registration]

02.02.2001

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(51)Int.Cl.⁷
A 4 5 D 34/00

識別記号
5 1 0

F I
A 4 5 D 34/00

テームコード(参考)
5 1 0 A

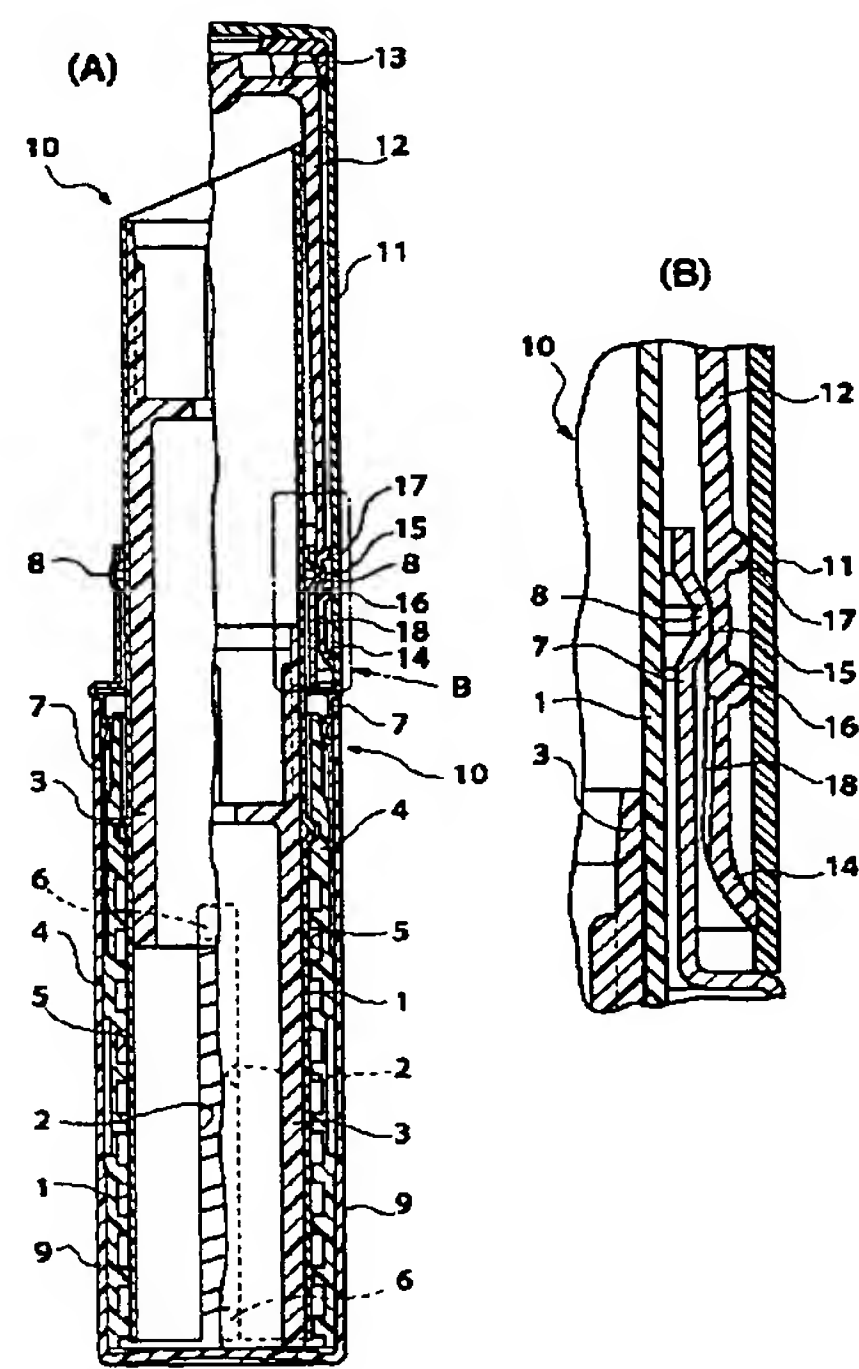
審査請求 有 請求項の数6 F D (全 7 頁)

(21)出願番号	特願平10－193608	(71)出願人	000153926 株式会社ヒダン 千葉県柏市花野井627番地
(22)出願日	平成10年 6 月25日 (1998. 6. 25)	(72)発明者	伊藤 健一 千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダン内
		(72)発明者	小林 哲夫 千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダン内
		(74)代理人	100078949 弁理士 浅野 勝美

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 化粧料容器

(57) 【要約】
【課題】 容器の気密性を良好に維持すること。
【解決手段】 容器本体10のキャップ11に嵌合する中具7の外周壁に環状突部8を設け、インナーキャップ12の上記環状突部8に対応する部分の周壁の肉厚を薄くするとともに内周壁を縦断面扁平にして肉薄部15を形成し、上記肉薄部15の上下の部分の外周壁の肉厚を厚くして肉厚部16、17を形成し、キャップ11嵌合時に上記肉薄部15を上記肉厚部16、17により挟み込み上記肉薄部15を上記環状突部8に密着する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 容器本体に嵌合するキャップの内側にインナーキャップを備えた化粧料容器において、容器本体のキャップに嵌合する部材の上部外周壁に環状突部を設け、インナーキャップの上記環状突部に対応する部分の周壁の肉厚を薄くするとともに内周壁を縦断面扁平にして肉薄部を形成し、上記肉薄部の上下の部分の外周壁の肉厚を厚くして肉厚部を形成し、キャップ嵌合時に上記肉薄部を上記肉厚部により挟み込み上記肉薄部を上記環状突部に密着することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 2】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記肉厚部を断面方形状に形成することを特徴とする化粧料容器。

【請求項 3】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの上部肉厚部の上方に位置する部分の肉厚を厚くして段部を形成し、キャップ嵌合時に該段部と容器本体のキャップに嵌合する部材とを当接することことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 4】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記環状突部を上下に 2 個形成したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 5】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの下部肉厚部の下方に位置する部分の内周壁にローレット溝を形成したことを特徴とする化粧料容器。

【請求項 6】 請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの下部肉厚部の下方に位置する部分の肉厚を薄くすることを特徴とする化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本願発明は化粧料容器に関し、とくに容器本体に嵌合するキャップの内側にインナーキャップを備えた化粧料容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種化粧料容器において、インナーキャップと中具の嵌合は、中具の上部に環状突部を設け、この環状突部に対応する環状凹部（いわゆるアンダーカット）をインナーキャップに設け、両者を嵌合することにより行なっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしこれによると、中具の環状突部とインナーキャップの環状凹部の位置合せがむずかしくズレを生じることがある。即ち、インナーキャップのキャップへの挿入は組立においてばら付くことがあり、深過ぎたり浅過ぎたりするとズレとなる。このズレがあると容器の気密性に悪影響を及ぼすのである。

【0004】 また、インナーキャップの環状凹部の成形は難しいという問題があった。即ち、成形条件によりインナーキャップの全長が長くなったり短くなったりする

ことがあり、このような場合、環状凹部の寸法も区々となり、容器の気密性に悪影響を及ぼすのである。

【0005】 最近の化粧料は揮発性の物質からなる成分（揮発性成分）が多く、閉蓋が完全になされないと変質の原因となる。本願発明は、上記背景において、化粧料容器の気密性を良好に維持することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的達成のため、本願発明による化粧料容器は、容器本体に嵌合するキャップの内側にインナーキャップを備えた化粧料容器において、容器本体のキャップに嵌合する部材の上部外周壁に環状突部を設け、インナーキャップの上記環状突部に対応する部分の周壁の肉厚を薄くするとともに内周壁を縦断面扁平にして肉薄部を形成し、上記肉薄部の上下の部分の外周壁の肉厚を厚くして肉厚部を形成し、キャップ嵌合時に上記肉薄部を上記肉厚部により挟み込み上記肉薄部を上記環状突部に密着することを特徴とする。また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記肉厚部を断面方形状に形成することを特徴とする。また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの上部肉厚部の上方に位置する部分の肉厚を厚くして段部を形成し、キャップ嵌合時に該段部と容器本体のキャップに嵌合する部材とを当接することことを特徴とする。また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記環状突部を上下に 2 個形成したことを特徴とする。また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの下部肉厚部の下方に位置する部分の内周壁にローレット溝を形成したことを特徴とする。また、請求項 1 記載の化粧料容器において、上記インナーキャップの下部肉厚部の下方に位置する部分の肉厚を薄くすることを特徴とする。

【0007】

【発明の実施の形態】 次に、実施の形態を示す図面に基づき本願発明による化粧料容器をさらに詳しく説明する。図 1 は本願発明による化粧料容器の一実施の形態を示し、左半部と右半部を直交方向に切断した状態をあらわしている。図 1 及び図 2 において、1 は身筒体であり、長手方向に沿って摺動孔 2 を設け、内側に化粧料（図示省略）を収容する中皿体 3 を昇降自在に摺嵌する。4 は上記身筒体 1 を内側に摺嵌する螺旋筒体であり、内周壁に螺旋状に設けた螺旋溝 5 を設けてある。そして上記中皿体 3 の外周壁に突設した係合突起 6 を身筒体 1 の上記摺動孔 2 を介して螺旋筒体 4 の上記螺旋溝 5 に摺動自在に係合し、上記身筒体 1 と螺旋筒体 4 とを相対的に摺動させることにより中皿体 3 を身筒体 1 内において昇降自在とする。7 は上記螺旋筒体 4 に固着する中具である。該中具 7 はキャップ 11 に嵌合する部材であり、上部外周壁に環状突部 8 を設ける。9 は該中具 7 及び螺旋筒体 4 の外側に強制嵌合により固着する袴筒体である。上記各部材により容器本体 10 を構成する。

【0008】一方、キャップ11は内側に樹脂製のインナーキャップ12を備える。該インナーキャップ12は上記キャップ11に頂上部13及び先端部14にて固着し、先端部14を嵌合し易いように外側に拡開してある。上記インナーキャップ12は上記環状突部8に対応する部分の周壁に肉薄部15を形成する。即ち、該肉薄部15はインナーキャップ12の他の部分の肉厚よりその肉厚を薄くするとともに、内周壁をストレート状つまり縦断面扁平に形成する。上記肉薄部15に隣接する上下の部分の外周壁の肉厚はインナーキャップ12の他の部分の肉厚より厚くして断面円弧状の肉厚部（下部肉厚部16、上部肉厚部17）を形成する。該下部肉厚部16の下方に位置する部分の内周壁にはローレット溝18を形成する。

【0009】次に、図2を参照してキャップ11の嵌合について説明する。キャップ11の嵌合において、インナーキャップ12を中具7に嵌合する際、まず下部肉厚部16が中具7の環状突部8を乗り越える。続いて肉薄部15が環状突部8に当接して嵌合が終了する。

【0010】この点をさらに詳しく述べると、当初中具7の環状突部8を乗り越える部分が弾性変形力の小なる肉厚部（下部肉厚部16）であり、また続く上部肉厚部17も弾性変形力が小であるため、嵌合の際の下方への押圧を抑止するストッパ効果がある。一方肉薄部15は弾性変形力が大であり、環状突部8を上下から挟んだ状態でインナーキャップ12が停止したとき、弾性変形力の大なる肉薄部15が中具7の環状突部8に密着するのである。そして肉薄部15は、成形条件による寸法の変動がないストレート状に形成されているため、インナーキャップ12のキャップ11への組立てにおいて多少のばら付きがあったとしても、環状突部8との嵌合時に位置合わせがずれるというおそれがない。

【0011】よって、容器の気密性が確実となり、とくに揮発性成分の多い化粧料の変質の防止に効果がある。

【0012】本願発明は上記した実施の形態に限定されない。例えば、上記肉厚部16、17の形状は任意である。例えば、図3に示すように断面方形状とすれば、肉厚部16、17のキャップ11の内周壁への接触面積が増大するので、容器の気密性向上の上から一層望ましい。

【0013】インナーキャップ12の肉薄部15及び肉厚部16、17に関与しない部分の形状は任意である。例えば、インナーキャップ12の上部肉厚部17の上方に位置する部分の肉厚を厚くして段部19を形成し、キャップ嵌合時に該段部19と中具7とを当接することとすれば、容器の気密性の一層の向上を図ることができる。図3はかかる場合をも示す。また図5に示すように、インナーキャップ12の下部肉厚部16の下方に位置する部分20の肉厚を薄くすることにより、キャップ嵌合を容易にしてもよい。

【0014】また、中具7の環状突部8の個数は任意である。図4に示すように、環状突部を2個設け下部環状突部8a及び上部環状突部8bとすれば、キャップ嵌合時に下部肉厚部16、下部環状突部8a、上部肉厚部17上部環状突部8bとジグザグに密接するので、容器が二重の気密となり一層望ましい。

【0015】また、化粧料の容器としては口紅容器のような棒状の容器だけでなく、容器本体に嵌合するキャップの内側にインナーキャップを備えた化粧料容器であればよく、容器の形状、大きさ、材質は問わない。

【0016】さらに、本願発明による化粧料容器は揮発性成分のない化粧料についても適用することができるのはもちろんである。

【0017】

【発明の効果】このように本願発明による化粧料容器によれば、容器の気密性を良好に維持することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明による化粧料容器の一実施の形態を示す断面図で、嵌合前を表わす。

【図2】本願発明による化粧料容器の一実施の形態を示す断面図で、嵌合後を表わす。

【図3】本願発明による化粧料容器の他の実施の形態を示す要部断面図である。

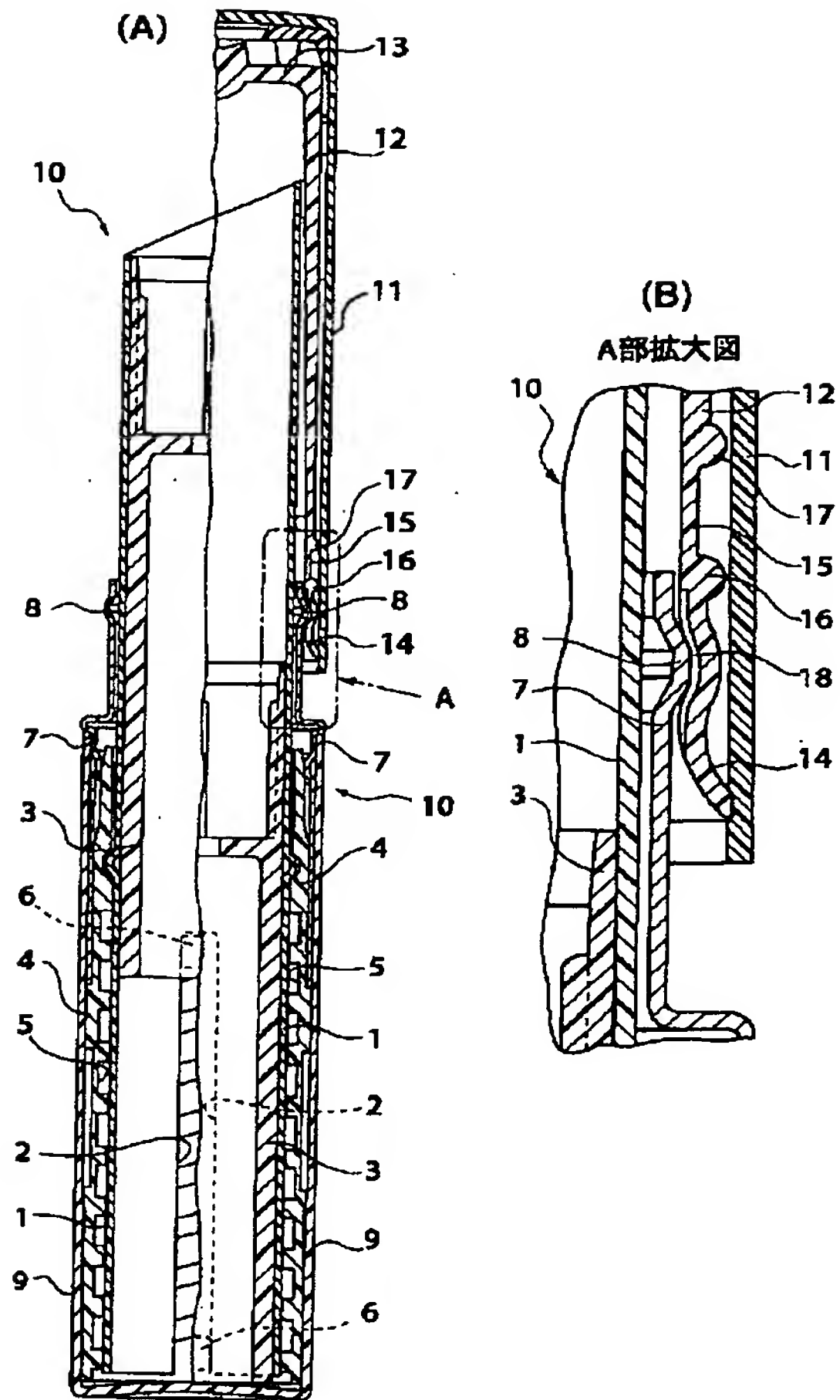
【図4】本願発明による化粧料容器のさらに他の実施の形態を示す要部断面図である。

【図5】本願発明による化粧料容器のさらに他の実施の形態を示す要部断面図である。

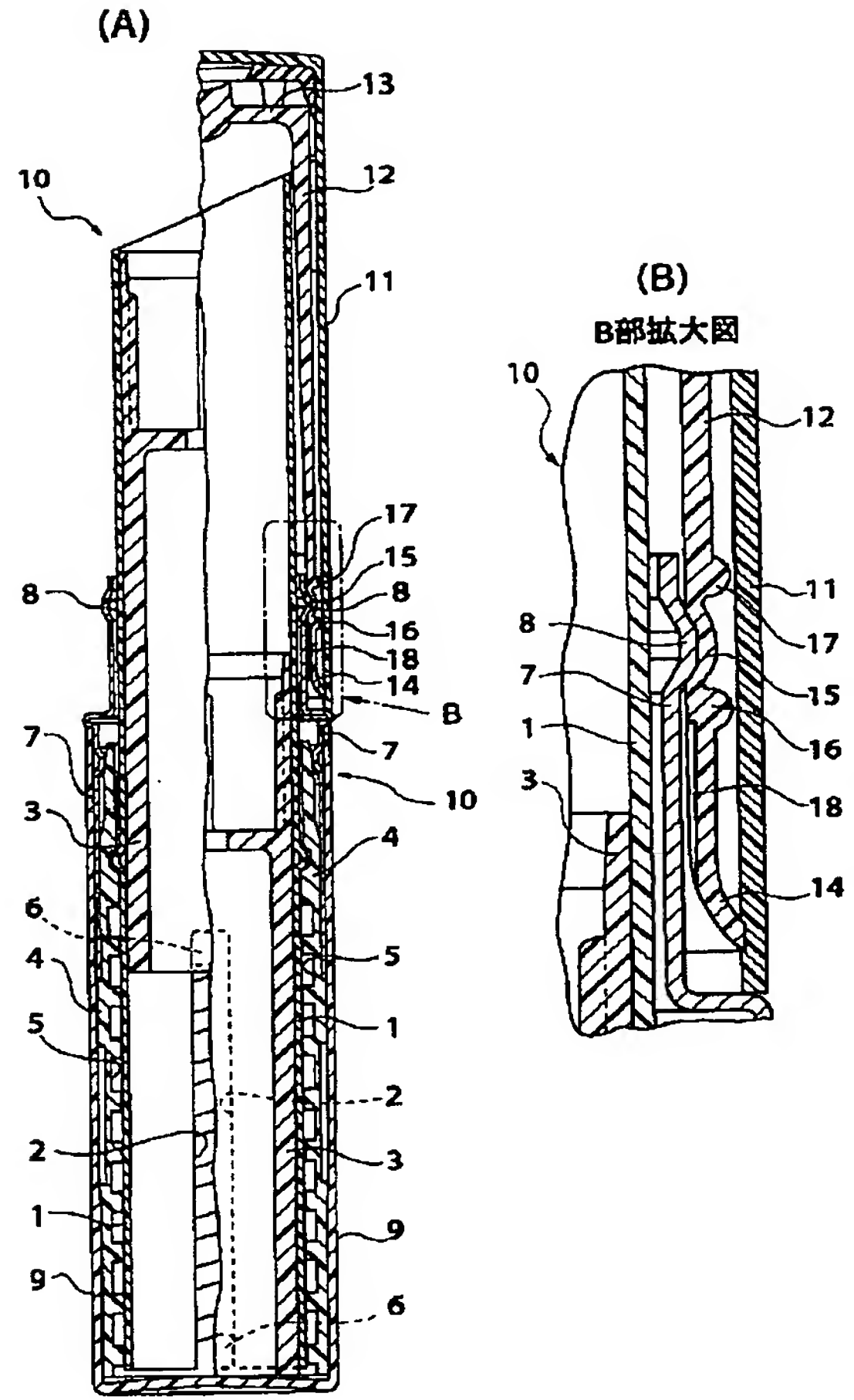
【符号の説明】

- 1 身筒体
- 2 摺動孔
- 3 中皿体
- 4 螺旋筒体
- 5 螺旋溝
- 6 係合突起
- 7 中具
- 8 環状突部
- 8 a 下部環状突部
- 8 b 上部環状突部
- 9 袴筒体
- 10 容器本体
- 11 キャップ
- 12 インナーキャップ
- 13 頂上部
- 14 先端部
- 15 肉薄部
- 16 下部肉厚部
- 17 上部肉厚部
- 18 ローレット溝
- 19 段部

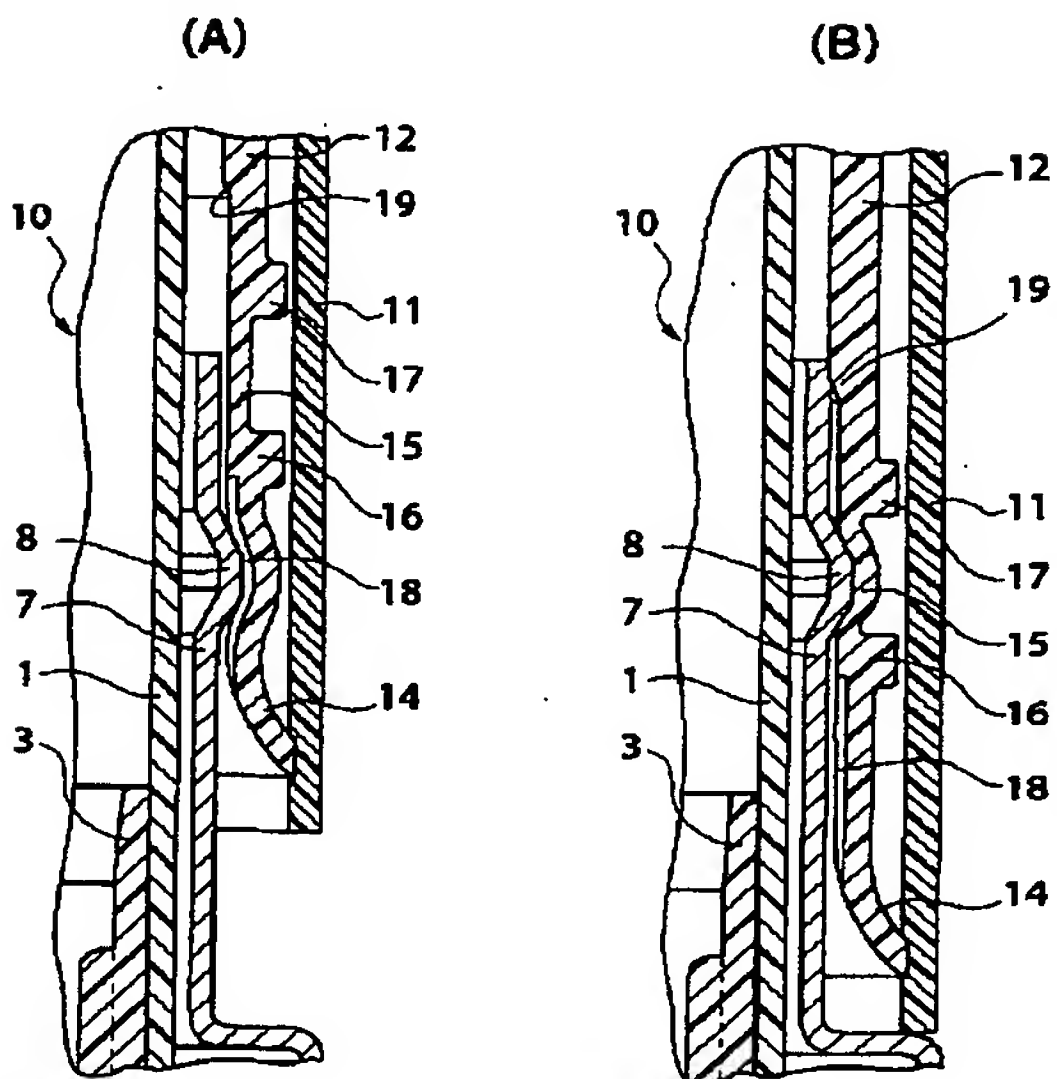
【図1】



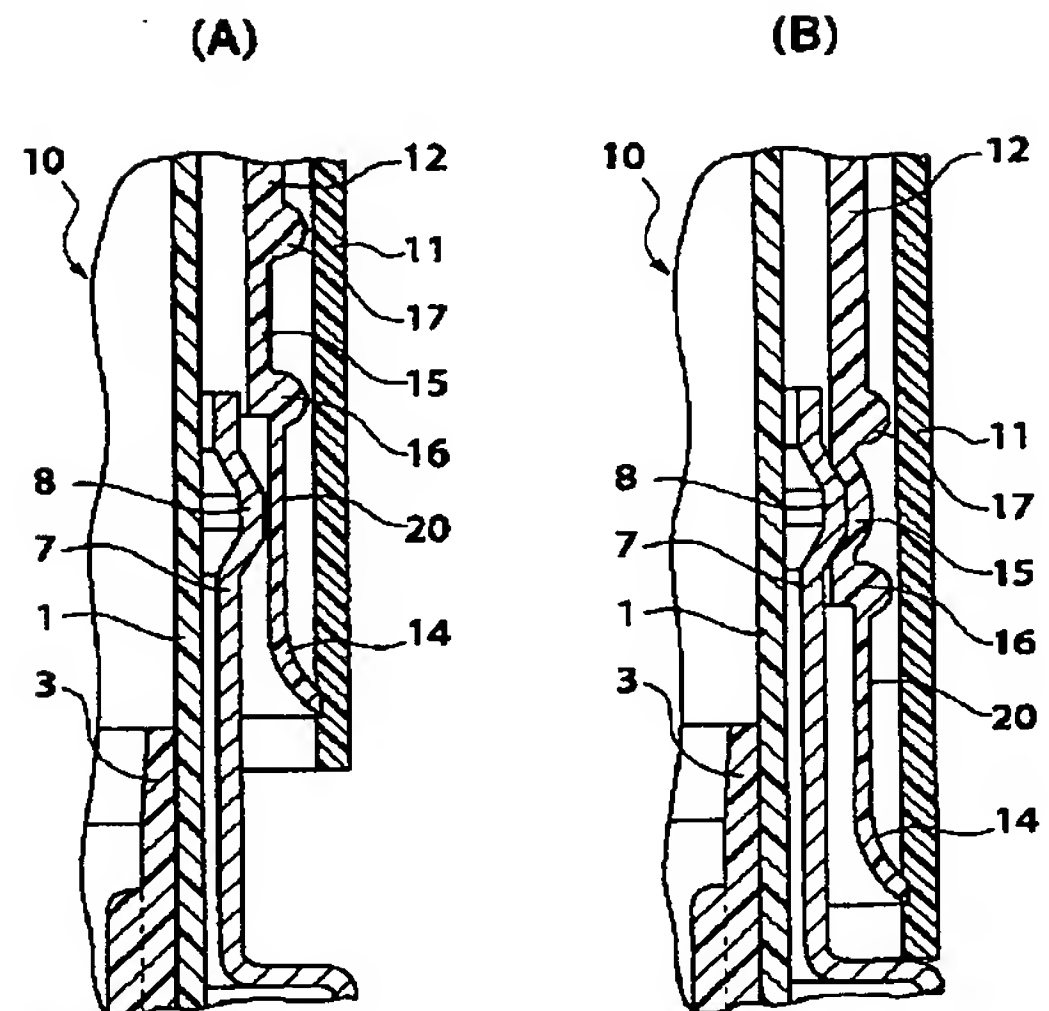
【図2】



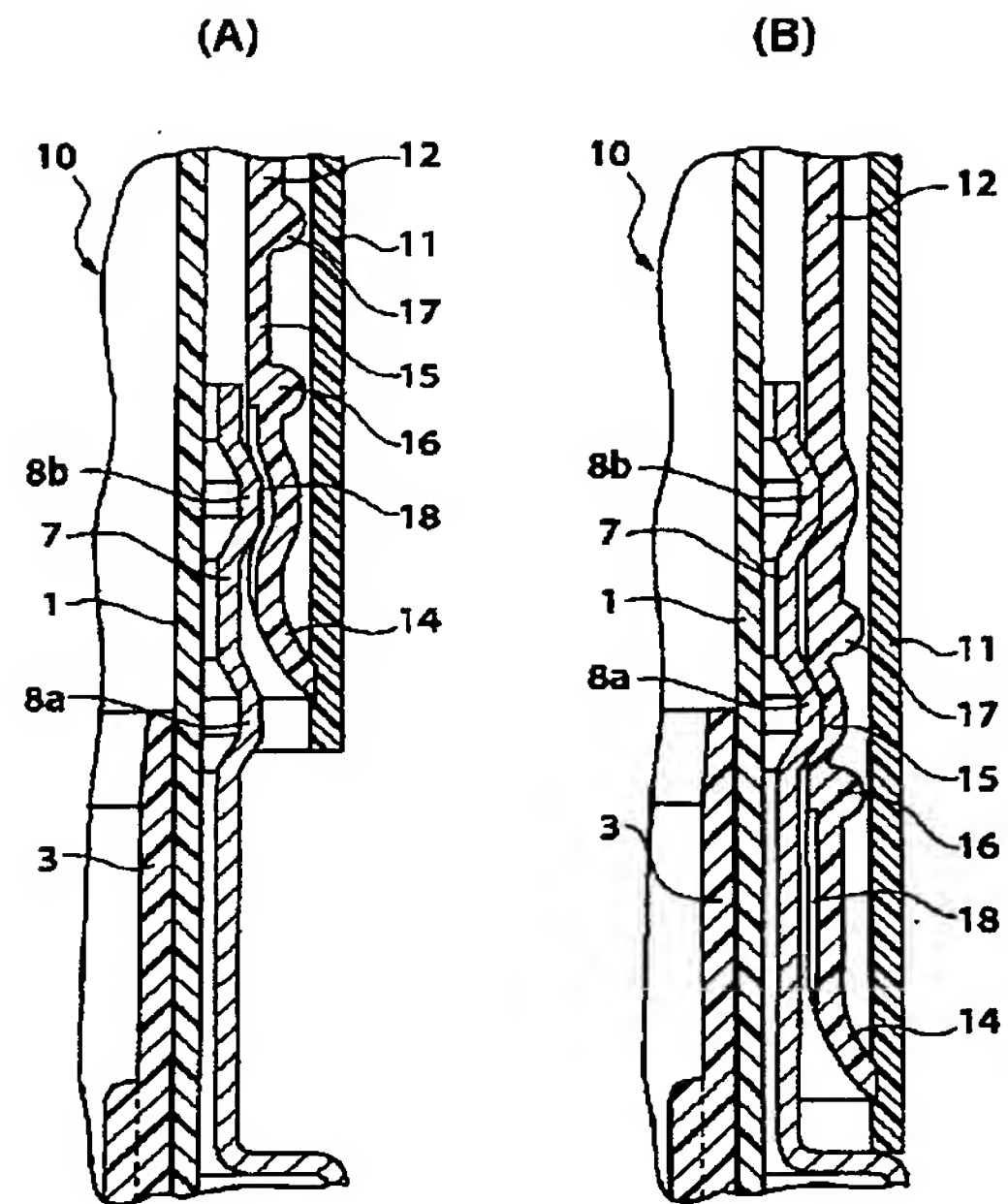
【図3】



【図5】



【図4】



【手続補正書】

【提出日】平成11年6月30日(1999. 6. 30)

【手続補正1】

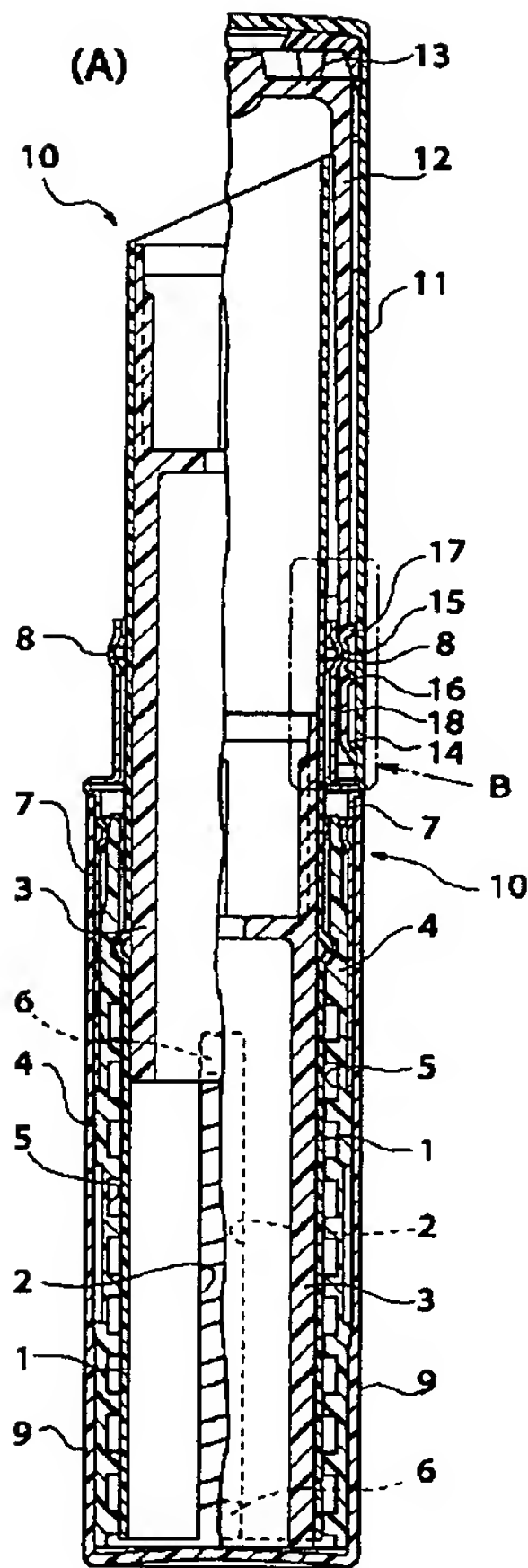
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

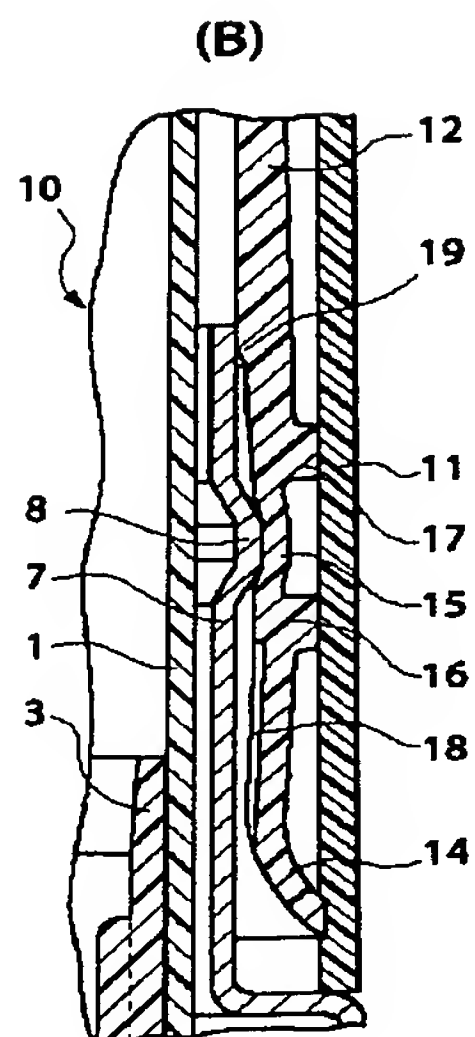
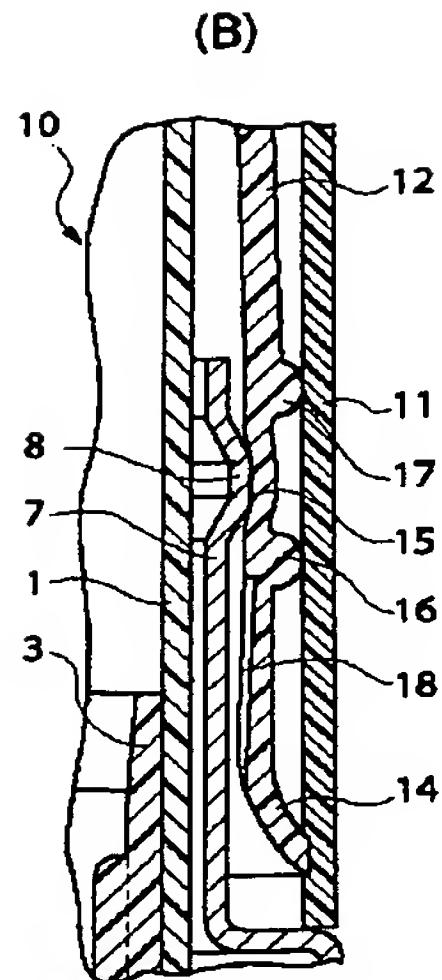
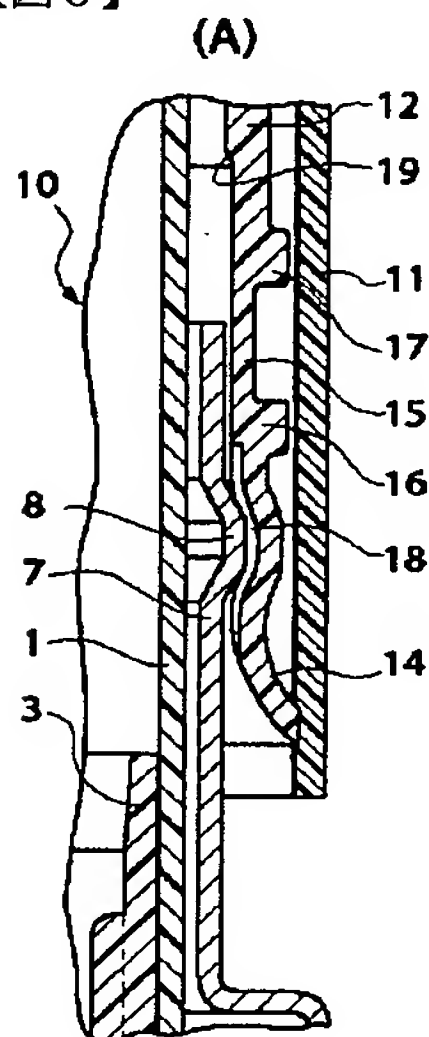
【補正方法】変更

【補正内容】

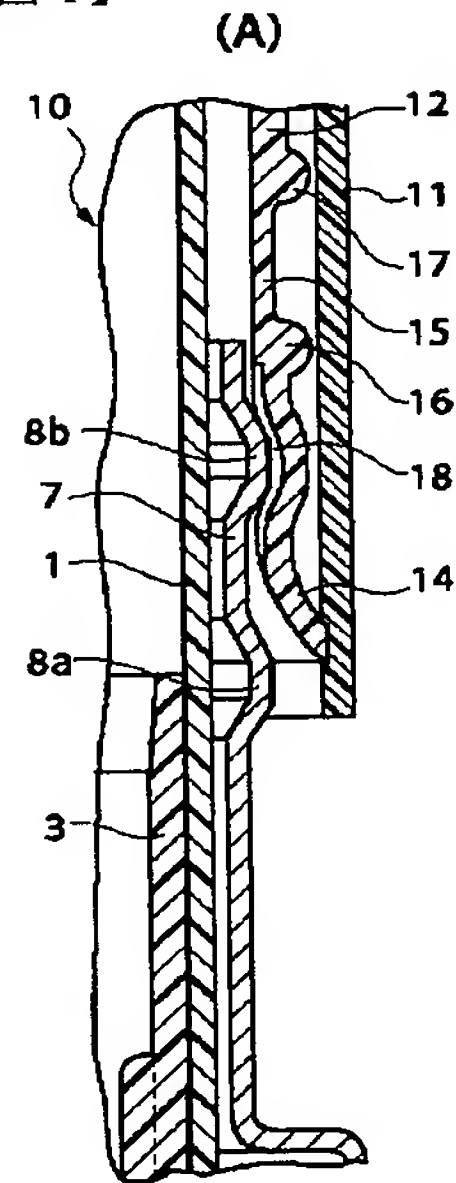
【図2】



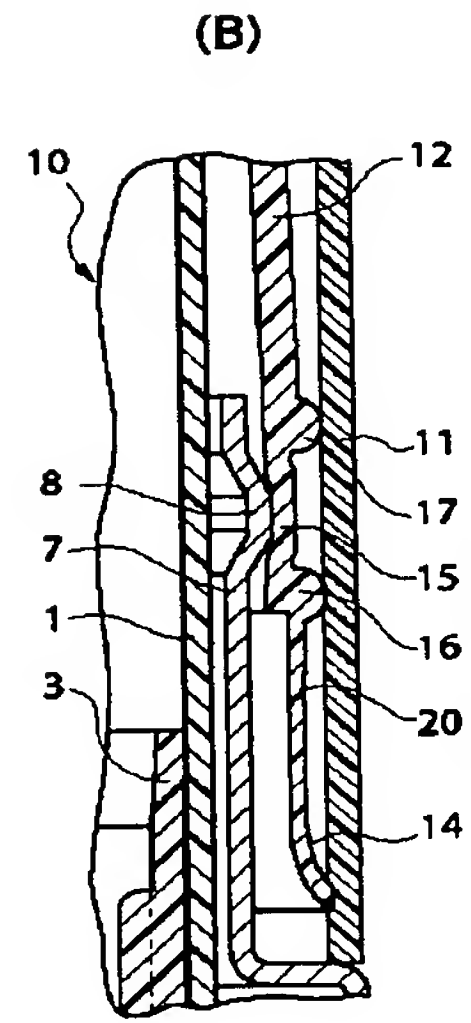
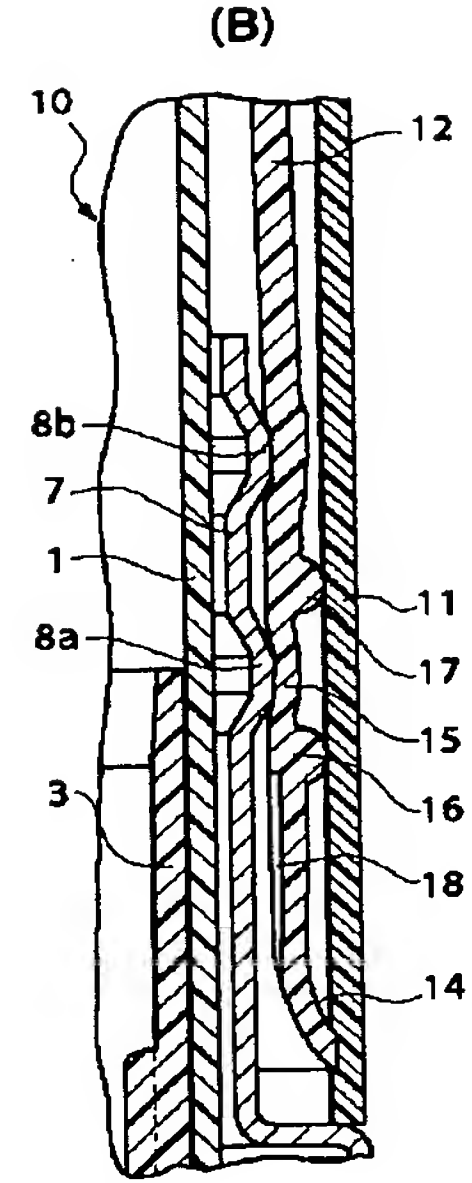
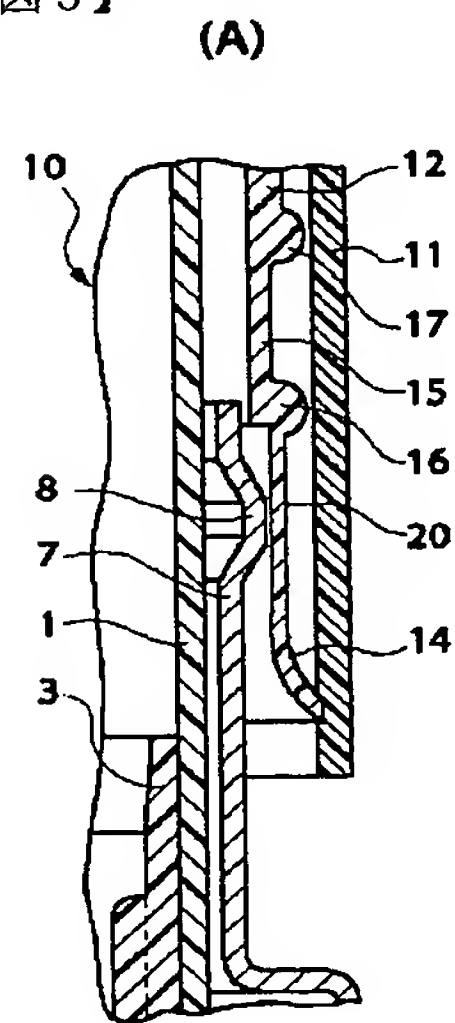
【手続補正2】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図3
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【図3】



【手続補正3】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図4
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【図4】



【手続補正4】
 【補正対象書類名】図面
 【補正対象項目名】図5
 【補正方法】変更
 【補正内容】
 【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 古山 雅久
千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダ
ン内

(72)発明者 安部 禎敦
千葉県柏市花野井627番地 株式会社ヒダ
ン内